

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 057	提案機関名 公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
要望問題名 カジメ群落とアマモ場の回復	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 神奈川県沿岸の岩礁域ではアイゴやブダイによる食害でアワビやサザエの餌料であるアラメ・カジメ場が荒廃している。現在、水産技術センターで早熟カジメによる回復試験を行っているが、規模が小さく、規模の拡大を図って頂きたい。特に、三浦半島西側沿岸ではアワビの好漁場がかかっており、栽培漁業のアワビ種苗を放流できる海域が減少している。また、神奈川県最大のアマモ場があった小田和湾でアマモがほとんど食害の被害で分布面積がなくなっている。アマモ場の回復も水産技術センターが指導することで、回復を図ってもらいたい。特に、魚介類の再生産の場としての視点で研究を進めて頂きたい。	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内      ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考 試験研究予算とともに漁場漁港整備予算など国の補助金を獲得することで、事業規模の拡大を図ってほしい。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 藻場再生技術高度化試験		
対応の内容等	当センターでは早熟性カジメやアラメの人工種苗を活用し、様々な水深帯での藻場の再生研究に取り組んでいます。引続き、県内の漁業関係機関や市町等と連携しながら、藻場の再生と水産資源の回復に取り組んでまいりますので、ご協力をお願いします。 アマモについては、国内の国立研究機関や大学および大企業等が様々な技術開発を行っているものの、近年は食害や波浪による流失が激しく、成功事例が乏しいのが現状です。このような状況下で、当所が新たに取組み成果を出すことは難しいと考えていますが、情報収集を継続し画期的な手法が開発された場合には、その導入を含めて検討して参ります。		
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			